

1〜4年生の子どもへの伝道

有限会社エグティエルシステム 代表取締役
横浜都筑三コータウンチャペル会員

大村 信蔵さん

今号は小学一年生から四年生の子どもを信仰に導く方法をご紹介します。

まず「子どもを信仰に導く」という言葉の定義をしたいと思えます。私が子どもを信仰に導くと言う場合、狭義では罪からの救いのことですが、広義では精神的に、信仰的に自立するまでのことを言います。ですから、親は子どもが社会人になっても信仰の先輩として子どもを導き続けることもあるということです。

まずは幼児期に(1)イエス様を心に迎えた子どもと、(2)イエス様を心に迎えていない子どもとは、対応の仕方が異なることをお伝えします。

(1)イエス様を心に迎えている子どもの場合

生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。1ペテロ2:2

いま私は、あなたがたを神とその恵みのみことばとにゆだねます。みことばは、あなたがたを育成し、すべての聖なるものとされた人々の中にあって御国を継がせることができるのです。



2つの聖句の共通点は、みことばによって人は成長し、確実に御国を受け継ぐことができるということです。このことを親は真剣に受け止める必要があります。みことばに従う訓練を子どもが受けて成長すると、自然に親を敬うようになり(途中反抗期があったとしても)、家族関係が神の祝福に満ちたものになります。

では、どのようにみことばにふれることを指導すると良いのでしょうか。以下に一例をあげますが一人一人成長には個人差があるので、子どもに合わせて行うことをお勧めします。

①字を読むことができるようになったら、朝学校に行く前に、みことばの1節を読み、祝福のお祈りをして送り出してあげてください。その子はみことばによって知らないうちに強められ、悪から守られて育っていきます。

②スラスラといかないまでも、一人で字を読むようになったら、日本CEFから出版され

ている「ひかりのことば」を用いて、子どもにお祈りさせ、その後親が祝福のお祈りをしてあげると良いです。「ひかりのことば」を勧める理由は、12カ月分あり信仰の確認ができるからです。

③小学三年生ごろには「ひかりのことば」を使って、一人でデイポーションができるように励まし育てるように心掛けてください。(親も自分のデイポーションの励みになります。小学生の間に新約聖書を最低1回読むことを目標に子どもに指導していくと良いと思います。①③の目的はみことばと祈りを通して、本人が神を体験することです。)

④子どもは教会学校へ行き、親は一般礼拝へ参加するケースが多いと思いますが、子どもが受洗していなくても明確に救われていると本人も親も認めているならば、子どもと相談して年に何回か、または月に一回(聖餐式のある日が良いです)は、親(できれば父親)子で並んで座って一般礼拝に出席することをお勧めします。このことを通して、子どもが霊とまことによって礼拝する体験ができるようにお祈りすることが大切です。親が心から主をほめたたえ、祈り、賛美し、みことばに応答していく姿勢を見せることが大切です。親の礼拝姿勢を見て子どもは育っていきます。親にとつてはとても大変な試練かも知れませんが、信仰継承は命がけと考えていただいた方が良くと思います。イエス様ご自身も命をかけて私たちを救いに導いて下さいました。また、聖餐式に親子で出席すると、ある時、子どもは必ず聞いてきます。「どうしてばく(私)は、パンとぶどう液をもらえ